

マレーシアにおける福祉の研究

特定非営利活動法人 アジア地域福祉と交流の会

〒854-0001 長崎県諫早市福田町 357 番地 15 社会福祉法人 南高愛隣会内

助成事業の概要

令和元年 12 月 11 日～ 16 日の 6 日間において、マレーシア ボルネオ島のデイセンタームヒバ (Muhibbah) での研修 (スタディツアー) を実施した。全国の福祉事業所に勤務する職員の育成及び離職防止を主な目的として、生活環境も福祉の制度も未整備な環境におけるアジアの福祉現場を通じ、福祉の原点を見つめ直す機会を提供し、地域福祉を支える人材の育成を大きな柱に実施している。また、これまで実施してきた 18 回のワークキャンプと 3 回のスタディツアーの経験を生かし、現地スタッフとのディスカッションで福祉の仕事の共通点を感じると共に、施設整備や環境整備といった共同作業で利用者と一緒に汗を流し、共に働く喜びを体験する機会とした。

参加者は回数を重ねるごとに増加し今回は ACE 会員並びに全国の社会福祉法人等に勤務する理学療法士、社会福祉士等 23 名の参加となった。

事業の成果

ボルネオ島サラワク州で RCS (現地登録 NGO) が運営するデイセンター「ムヒバ (Muhibbah)」は、チェアマンのジョセフ氏と 8 名のスタッフ、20 名程度のメンバーが通うセンターである。

今回で 4 回目となったマレーシアスタディツアーであるがその前身は 2006 年から 2017 年まで 18 回継続してきたワークキャンプである。

ワークキャンプのいい部分は残しながら、できるだけ多くの方に時間的負担や身体的負担が少ない形で参加していただけるように実施している。

今回は、例年よりも多くの参加者に参加していただけるよう、参加者募集に力を入れ、結果 23 名でのツアーとなった。ほぼ毎年参加して下さる参加者もあり、ムヒバのメンバーやスタッフのことを深く知り、現地の置かれた状況を理解し、現地スタッフやメンバーとの信頼関係の構築ができてきた。また、過去参加して下さっている方が今回初めての参加者を色々な場面でうまくフォローしたりと年を重ねるごとに中身の濃いツアーとなっているように感じた。

サラワクのシブ空港に到着後、バスで約 40 分。前年に「ゴトン・ロヨン」で舗装したセメントで固めた坂を上るとイヴァン族の民族音楽とダンスでスタッフとメンバーが笑顔で迎え入れてくれた。昼食後は早速、「ゴトン・ロヨン」のワークキャンプで、山の上にある養殖池の漏水修繕と山の下にある池にかかる小屋の建設や調理を通じて、現地メンバーやスタッフと泥だらけになりながら一緒に汗を流し、共に働く喜びを体感することができた。その後、現地スタッフと日本スタッフの意見交換会を行った。コミュニケーションツールとして Line やメールが主流となり人と人が向き合うことが少なくなってきた現代社会で、このツアーを通して改めて人と人との繋がり、心と心の繋がり、制度だけではない心の内面、福祉の原点、楽しさ、幸せを再認識することができた。地域の住民とムヒバのメンバーが自然と溶けあい、認め合い、支えあいながら共存すること。まさに昨今

の重要課題として取り組まれている「共生社会」そのものであると再認識できるツアーであってほしいと願っている。

■ 成果の広報・公表

FaceBook でお知らせするとともに、ACE だよりで会員への発信を行う。

また、各参加者が勤務する社会福祉法人において研修報告を行っていただくことで、今後の参加者獲得につなげていく。

■ 今後の展開

ムヒバを運営する RCS も課題は多いものの、家の中に閉じこもってどこも行き場のなかった子どもたちや途中までしか学校に通っていなかった子どもたちに、活動の場を提供し、他の人たちと関わる機会が与えられたことの意味が大きいことは確かである。その RCS や ACS を今後も変わらず支援していく活動は、ACE の大きな役割であり、一方で、勤務年数おおよそ3年以上の日本で福祉に携わる職員の育成と離職防止を主な目的に「福祉の原点をもう一度見つめ直す」「アジア諸国の福祉の現状を理解する」「日本人が薄れてきた人と人との絆」など原点回帰のツアーになることを期待し、今後も継続していきたい。